

町田市議会議員・納税者主権

吉田つとむ

良識ある保守主義を目指す

町田市議会

〒194-8520

東京都町田市

森野 2-2-2 2

☎042-724-2171

「保守の会」派室

自宅042-795-7361



指定管理の選考委員とは

町田市が行う事業に関して、指定管理者を決め、外部に一定期間委託発注するものがあります。通常の入札発注では、落札金額が低い業者が落札となりますが、指定管理者の決定に当たっては、評価点数の高さで概ね決定する方法が採用されているようです。客観的な手法に見えますが、その評価点数は、選考委員（3名）が判定する方法が取られています。実際に取り寄せた最近の資料を見ると、その点数評価は委員によって大きく異なっており、その評価基準は委員個人個人の価値観で全く異なるものではないのかと思いました。また、そもそも選考基準とするものがどのような項目が相応しく、その配点を合理的と考えると、それ自体が客観的な根拠があるものとは言えないと思いました。

町田市は、概ねこの選考委員の判断に合わせて、指定管理者を決めることとしています。最終的には、市議会に議案として上程されるものです。私は、市内事業者と市外事業者のいずれに重きを置くかと言う発想も重要な基準ではないかと考えて行動したいと考えての判断としています。



ご案内をいただき、2018年末の餅つき行事で挨拶、前後して餅つきで頑張る

風しんが多発した町田市の経験と記憶

また、「風しん」が大流行をしています。今回、町田市はその説明を「風しんは、免疫のない女性が妊娠中（特に妊娠初期）に感染すると、胎児が先天性風しん症候群となるおそれがあり、注意すべき疾患です。」とし、さらに、「先天性風しん症候群：妊娠初期の妊婦が風しんウイルスに感染すると、胎児が風しんウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障、精神運動発達遅滞等の障害をもった赤ちゃんが生まれる可能性があります。」と説明しています。その町田市は、「対象を拡大して、風しん抗体検査と予防接種の費用助成を行います」とも発表しました。どなたに限らず、少しでも心当たりの方は、ぜひ、かかりつけ医などにご相談下さい。

思うに、風しんワクチンの接種が十分でなかった世代を中心に、2012-3年に大流行を発生しました。その時は東京都が接種の半額を補助し、多数の自治体で残り分を負担することで、無料で接種が受けられました。ただし、町田市はあえて市が負担する予算措置を取りませんでした。議会は多数意見でその負担を求める予算修正を行いましたが、市長が「再議」と強権を用いた方法で行政負担を拒否したことで、逆戻りの半額負担になってしまいました。

この2013年の風しん患者数は、八王子市86件、町田市105件、相模原市94件と町田市が突出しました。本年の調査時点では、八王子市11件、町田市9件、相模原市13件と人口に沿った件数となっています。風しんの発生防止対策では、国が一斉対策をした方が効果的だと思います。

★ 政党無所属・市議会は保守の会 mail : yoshidaben@gmail.comURL <http://j-expert.jp/> 動画 <http://jp.youtube.com/yoshidaben>

メール送信

編集者 〒194-0011 町田市成瀬が丘 1-14-12 サンホワイトE103-13 吉田つとむ（自宅）

町田市議会議員 **3期連続トップ当選**

吉田つとむ

取材・記事作成・総合編集



左上はブログ
右上は新規の
ビジュアルサイト



インターン生募集中

研修レポート③①宇都木彩名

今回は町田交通安全協会の事務所を訪問しました。事務所は町田市旭町にあります。交通安全運動は年 2 回、各 10 日間行われています。運動開催時に合わせて、その本部へ挨拶のために立ち寄りしました。そこで市内巡回パトロールの合間に立ち戻った役員の皆さんとご挨拶をしました。こうした活動は、地域の活動を含めて、参加者の全員がボランティアで行っているそうです。ボランティア精神が強い市民が多いことはとても嬉しいことです。町田市民はより良い街づくりへの意識が高いのだと実感しました。



期間中は町田市内の 10 か所に交通安全指導のテントが立ちます。その内 2 か所は南大沢交通安全協会担当エリアとなっています。私は町田市民ということもあり、過去に何度か交差点で交通安全指導のテントを見たことがあります。しかし、それが年に 2 回行われていたことや本部が旭町にあることなどの詳細は知りませんでした。市民の一人である私も毎年行われるこの運動から見守られて育ってきたのだと感じ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

津田塾大 2 年生 宇都木 彩名(第 39 期生)

昭和女子大産学交流会に出席

昭和女子大学の産学交流会に案内を受け、インターンシップの体験報告などを聞く機会がありました。全部で 200 名ほどの参加者でしたが、政治家では私がただ一人の招待者でした。それは、学生インターンシップ生の受け入れを昭和女子大では正規の「単位制」としてしていることが理由です。

坂東眞理子理事長・総長の挨拶があり、いかに、昭和女子大学が学生のキャリア支援に取り組んでいるか、また、インターンシップ活動で企業の協力があって、女子大学(卒業学生数 1000 人以上の規模)で就職率第 1 位、全国の大学で 5 位、東京地区で第 1 位との説明(資料を含む)もありました。次いで、キャリア支援部長・キャリア支援センター長の磯野教授からその詳細な解説がありました。

またこの後、インターンシップ体験者の 2 名の報告がありました。それぞれ、良くまとめられた報告でしたが、それを受けて相手先企業の担当者の方が受け入れ側としての感想を述べられました。決して、「べたほめ」の形ではなく、注文も加えられた点がリアルで良かったと思いました。



坂東眞理子理事長・総長(昭和女子大学内)

★ 吉田つとむのインターンシップは 1998 年に開始、町田市役所のインターンシップ受け入れや、中学生の職場体験に先行実施

★ 大学生・院生を対象に、議員活動に同行することを通じて社会勉強を支援しています。

インターン希望の方、関心がある方は、ホームページの掲載要旨をご覧の上、ご連絡ください。